

「豊島区生涯学習推進ビジョン」改定に伴うパブリックコメント実施結果について

1. 実施期間

令和6年12月11日（水）～令和7年1月14日（火）

2. 周知方法

広報としま 12月11日号掲載、区ホームページ掲載

3. 閲覧場所

区ホームページ、学習・スポーツ課、行政情報コーナー、各地域文化創造館、みらい館大明、
区民事務所（東西）、各図書館、各区民ひろば、

4. 受付件数及び受付方法

（1）受付件数 27件

（2）受付方法

Eメール 27件、直接持参 0件、郵送 0件、FAX 0件

（3）意見件数 65件

※複数のご意見をお寄せいただいたものがあるため、受付件数と意見件数は一致しません。

<内訳>

項目	意見件数
I 子ども・若者の学びの支援	23件
II 多文化理解の促進	10件
III 生涯学習施設の機能強化	4件
その他のご意見	28件
合計	65件

5. ご意見等の概要と区の考え方

I 子ども・若者の学びの支援

No.	ご意見等の概要	件数	区の考え方
1	<子ども・若者のニーズを捉えた学習支援について> 子どもが講座に参加するためには、最終的に親の判断（許可）が必要となる為、講座を通して得られるメリット等を保護者に対して説明することが必要だと思う。	1 件	以下のような取り組みを通じて、保護者の方々に講座の意義や安全性を理解いただけるよう取り組んでいきます。 ・発表会や作品展示会など、子どもたちの成長が実感できる場を設けることで、保護者が講座の意義を実感しやすいようにします。 ・親子で体験できるワークショップなど、一緒に親子で参加できる機会を設けることで、講座の楽しさや意義をともに実感できるよう工夫します。
2	<子ども・若者のニーズを捉えた学習支援について> 「子ども・若者が学びを通じて自分のやりたいことを見つけ実施できる、トライ&エラーができる場」とは、具体的にどのような場か知りたい。	2 件	本区では、新しい価値観や経験へ触れる機会を提供することで、若者の成長を支援するために、みらい館大明内の「ブックカフェ」を拠点に様々な活動を実施しており、失敗を恐れず挑戦できる環境を整えることを重要視しています。 「ブックカフェ」では、「やってみたい」と思う参加者の気持ちを尊重し、新しいアイデアを試す機会を広げるため、準備段階からコーディネーターが伴走します。例えば、若者による企画運営やイベント実施など、実際にチャレンジすることで、多様な価値観やスキルを体験的に学び、自己肯定感の向上をサポートしています。
3	<子ども・若者のニーズを捉えた学習支援について> 「子ども・若者が学びを通じて自分のやりたいことを見つけ実施できる、トライ&エラーができる場の提供」とあるが、子ども・若者はそもそもやりたいことが分からない、見つからない以前に、そういった挑戦できる場所がある事をそもそも知らない。知らなければやりたいことについて日頃から考えることはできない。そのため、学校などの公的な教育の場のカリキュラムに取り込むなど、確実に目につく場所で並行して周知する必要がある。	1 件	子どもや若者にとって「挑戦できる場がある」という基本的な情報にアクセスできる環境を整えることは重要と考えています。ご指摘のように学校は子ども・若者が日常的に通い、最も情報が届きやすい場所であるので、学校経由で事業を周知するなどの工夫をしていきます。また、中学生の職場体験の場として生涯学習施設を活用し、子どもたちに施設を知ってもらう機会を積極的につくるなど、挑戦を支える場である生涯学習施設や生涯学習事業自体の認知度を上げる仕組みを強化していきます。

No.	ご意見等の概要	件数	区の考え方
4	<子ども・若者のニーズを捉えた学習支援について> 子ども・若者の社会教育の参加率低下について、魅力度を高める必要があると思う。例えば、小学生や中学生の夏休みの宿題として区内の生涯学習の講座への参加を含めることで、初回参加を促す取組みがある。	3 件	現在でも地域文化創造館では、小学生向けに書初めや夏休みの自由研究に役立つような講座を展開しています。こうした取り組みを増やし、生涯学習施設へ足を運んでもらえる身近なきっかけを増やしていきたいと考えています。
5	<子ども・若者のニーズを捉えた学習支援について> 「SNS を活用した広報活動」とあるが、SNS での広報も効果的ではあると思うが、アルゴリズム的に近い投稿を見ていないと広報が流れない仕組みになっているため、既に関心がある層にしか届かない恐れがある。	2 件	「SNS だけでは情報が全員に届かない」という課題を認識しつつ、SNS を活用した広報活動をより有効にする工夫に加え、従来型の広報誌の掲載、ポスター掲示、学校へのチラシ配布等のアプローチを組み合わせさせていただきます。 また、講座参加者へのアンケート等を通して、広報施策の成果を定期的に評価し、柔軟に見直すことで、多くの子ども・若者に生涯学習の情報を届ける取り組みを推進していきます。 ご意見を踏まえ、「3—5 施策の方向性 学習情報の発信」に「ターゲットに届きやすく、伝えたい情報を明確にするなど世代に応じた広報手段を工夫します。」と追記しました。
6	<子ども・若者のニーズを捉えた学習支援について> 「小中学生の発表の場として地域文化創造館の文化祭を活用」とあるが、これまで開催されてきた文化祭は子どもよりも高齢者世代の発表がメインになっている。子ども・若者に間口を広げるため、参加資格を子ども・若者及びその支援団体に限定した文化祭、それに準ずる企画を新たに開催してはどうか。	2 件	地域文化創造館の文化祭は、これまで幅広い世代が参加できる場として運営しており、現状、高齢者の方が多く参加されている印象はありますが、小中学生の作品展示や中学生が教えるワークショップの実施なども積極的に行っています。 例えば、豊島区の特色であるアニメやコスプレ等を活かした体験型事業、夏休みの自由研究に役立つような講座、親子で体験できるワークショップ、近隣小中学校の発表会や作品展示会の場として活用するなど、子ども・若者が自己表現をする機会や、挑戦の場を提供するとともに、地域が次世代を支援する土壌づくりを目指した事業展開をしていきます。一方で、子ども・若者のみに限定することで、世代間コミュニケーションの場が減ってしまう懸念があります。子ども・若者が安心して発表できる機会を増やすとともに、世代間のつながりの場も並行して継続できる方法を模索していきます。

No.	ご意見等の概要	件数	区の考え方
7	<部活動の地域移行・地域連携について> 部活動を地域移行・地域連携することは、教員の負担軽減になるとともに、子どものモチベーション向上に繋がるため、地域・子ども・教員の3者にとって良い取り組みだと思う。	1 件	中学校の部活動は、今後少子化の影響や教員の働き方改革の観点から、地域との連携や移行が求められています。教員の負担軽減とともに、子どもたちのスポーツや文化芸術の機会をしっかりと確保できるよう豊島区の地域、企業、団体、大学などと連携・協力を得ながら部活動改革を進めていきます。 また、生涯学習においては、生涯学習施設での実績を活かして、伝統文化やプログラミング等の活動に対する社会教育人材の派遣、活動場所の提供等の側面で支援をしていきます。
8	<子ども・若者の居場所の充実について> 子ども・若者の居場所不足が指摘されるなか、生涯学習において子ども・若者の居場所の拡充に取り組むことは有意義な取り組みと考える。	7 件	生涯学習を通じて子ども・若者の居場所を充実させることは、安心して学びや挑戦ができる環境を提供するうえで重要であり、社会的意義の高い取り組みであると認識しています。 生涯学習施設を中心に、子ども・若者が気軽に集まり、交流や学びを通して成長できる場や、子ども・若者が自習できる場の整備を推進していきます。
9	<子ども・若者の居場所の充実について> 現状、みらい館大明は最寄り駅から遠方であり、近隣の道も狭く、子どもが放課後に通うことに対して不安を覚える。子ども・若者の居場所づくりをみらい館大明に頼るのではなく、他の施設、特に駅や小中学校に近い地域、放課後の学校等でも増やしていくことは出来ないか。	2 件	現状では、小学生の子どもの居場所として、区立小学校等 22 か所に「子どもスキップ」、東西 2 か所に中高生の居場所である「中高生センタージャンプ」、小学校区ごと 26 か所に世代を超えた交流の場である「区民ひろば」を整備しています。 また、みらい館大明内の「ブックカフェ」において、NPO 等と協力して若者の居場所づくりの充実に取り組んでいます。 加えて、区内に 5 館ある地域文化創造館に、子ども・若者を対象とした新たな拠点を整備する予定です。地域文化創造館は小中学校や駅に近い立地にあり、館に拠点を整備することで、子ども・若者が安心・安全に放課後や休日に立ち寄って頂けると考えています。

No.	ご意見等の概要	件数	区の考え方
10	<子ども・若者の居場所の充実について> 数値目標として「生涯学習施設における子ども・若者が自習できる場の数」が設定されているが、単に机と椅子が用意されていて自由に利用できる場なのか、分からないことを教えてくれる大人が常駐しているのか、具体的にどのような場なのか知りたい。	1 件	生涯学習施設で、子どもや若者が自習できる場として想定しているのは、見守る大人がいる中で、自由に学べる場です。どのような場が望ましいのかは、利用する子ども・若者の意見を聞きながら整備していきたいと考えています。
11	<子ども・若者の居場所の充実について> それぞれ居場所ごとにコンセプトを決めると良いと思う。	1 件	生涯学習施設における子ども・若者が自習できる場として「6 か所」を目標値として設定しています。それぞれの場の地域性や施設機能に応じて、対象年齢を設定する、学びの内容をフォーカスする等、コンセプトの設定を検討していきます。

Ⅱ 多文化理解の促進

No.	ご意見等の概要	件数	区の考え方
1	<日本語教室について> 数値目標として「日本語教室等におけるボランティアによる学習支援者数」が設定されているが、日本語教室があるということを広めていき参加者を増やす必要があるため、参加者数の増加も目標として掲げた方がいいと思う。	7 件	令和 2 年度以降、日本語教室の学習者数は増加の一途をたどっており、学習者の増加に対して、学習を支援する者が不足しているのが現状です。 日本語の学びの充実という観点において学習者数を増やすことは必要であると考えますが、前述のような本区の実態から、学習を支援する者を増やすことを目標に設定しています。学習院大学等と連携し、支援者を増やすための取り組みを検討してまいります。
2	<日本語教室について> 日本語教室を支援する地域人材の発掘について述べられているが、具体的にどのようなことを行うのか。	1 件	日本語教室は、現在多くのボランティアの協力によって実施されています。多文化共生に関心のある地域の方々が、ボランティアに積極的に参加してもらえよう、ボランティア募集の周知を強化し、学習院大学を中心とした各日本語教室間のネットワーク構築を進めていきます。
3	<相互理解の向上について> 日本語教室だけでなく、外国人と日本人がお互いに文化を知ることができる場をつくる必要があるが、どのように「相互理解を向上」させ、「対等」を実現するのか具体化して欲しい。	1 件	相互理解を向上させるためには、日本人と外国人が料理、音楽、芸術といった文化活動の体験を通じて相互に交流、学び合うことが効果的と考えています。 現在、みらい館大明では、「異文化体験イベント」として世界の料理をつくったり、体験的語学教室として学んだ語学を使って外国人の方が経営する店に行き、食事や買い物を楽しむことから生活文化を身につけたりする講座を実施しています。また、日本語教室等においても、交流イベントや異文化理解を推進するため日本人向けの講座を開催しています。 こうした草の根の交流も含め、お互いの文化を身近に感じられる機会を増やしていくとともに、多くの方に知っていただけるよう広報の仕方を工夫していきます。

No.	ご意見等の概要	件数	区の考え方
4	<相互理解の向上について> 言語の壁や文化の違いがあるため、何も知識を持たない人間が集まると、むしろ関係悪化につながる恐れがある。特に、文化の違いに関してはデリケートな問題であるため、事前知識を得ることのできる講座の開講がセットで必要となる。	1 件	相互理解を促進するためには、事前知識を学ぶ機会は重要と考えています。現在実施している多文化共生ゼミでも、外国籍の方と日本の方が同じテーブルで学ぶまでに丁寧に文化の違いやコミュニケーションの取り方などを学んできました。今後も相互理解促進のために学びの場を工夫していきます。

Ⅲ 生涯学習施設の機能強化

No.	ご意見等の概要	件数	区の考え方
1	<学びを地域活動に生かす仕組みについて> 学びを地域に還元する仕組みを拡充する必要がある。例えば、実践報告会を定期開催し成功事例を広める、学習者と地域活動のマッチング支援サービスを生涯学習施設やオンライン上で設置する、SNS などの広報を通して地域の活動に参加するハードルを下げる等が考えられる。	1 件	生涯学習施設では、学習情報を気軽に収集できる情報コーナーの設置や、学習相談を気軽にすることができる環境整備に向けた取り組みを検討しています。 また、としまコミュニティ大学では、年に1度、学習者同士が成果を共有する「学習ネットワーク交流会」を実施しており、こうした場の拡充を目指していきます。さらに、オンラインを活用した学びの成果を活かす方策について検討していきます。
2	<活動拠点の機能強化について> 一文目に「生涯学習施設を年齢等にかかわらず、誰もがより利用しやすい学びの場」と記載がある一方で、二文目では、「生涯学習施設を子ども・若者が学習や交流できる場」と記載されている。生涯学習施設は、子ども・若者のみならず、誰もが自由に学習や交流ができる場として提供されるべきだと思う。	1 件	生涯学習施設は年齢にかかわらず、全ての人が自由に学習や交流を行える場として提供されるべきであり、その点を重視して運営しています。 一方で、現在の施設の利用状況において、子ども・若者の利用率や参加頻度が低い傾向があります。そのため、「誰もが利用しやすい場」という大前提を守りつつ、特に利用が進んでいない子どもや若者層へのアプローチを強化することで、より幅広い層に利用される施設を目指していきます。
3	<千早地域文化創造館の改築について> 千早地域文化創造館改築後のイメージパスにおいて、もう少し開かれたイメージが良いと思う。例えば、1階ロビーの「展示・交流ラウンジ」は「交流」という名がついているが、実際にそこで、地域の人びとが対話したり、歓談したりするような、温かいイメージがなく寂しく感じた。	1 件	改築後の千早地域文化創造館の1階ロビー「展示・交流ラウンジ」は、1・2階をつなぐ開放的な吹き抜け空間となっており、イベントやマルシェなど多目的に活用することができます。また、自由に利用できるフリースペースを確保するとともに、作品展示用ギャラリーを設置し、地域の皆さまが自然に集い、交流を深められる場として整備します。加えて、地域交流の促進を図るため、隣接する公園や図書館との連携を強化し、共催イベントの開催を検討していきます。

その他のご意見

No.	ご意見等の概要	件数	区の考え方
1	<目標について> 豊島区をどのような街にしたいか大きな目標と、それを達成するための5年ごとの目標があってもいいのではないかと思います。	1件	本区の生涯学習の理念「ともに学びあい、よりよい生き方、よりよいまちへ」では、個人の学び、他者との学びあい双方により、地域を良くしようという意識が醸成されたまちを目指すものとしています。それに向けて、本ビジョンでは、2025年度から2029年度の5年間の目標として、「「学びの循環（わ）を広げる「としま学びスタイル」の実現」を掲げています。生涯学習を取り巻く環境や社会変化に対応するため、5年ごとに目標の見直しを行っていく予定です。
2	<重点取り組み全体について> 現状と目標を数値で表しており、客観的に判断することできて良い。しかし、目標としている数値だけでは具体的にどのような取り組みを行うのか不明瞭であり、具体化した方が分かりやすいと思う。 また、なぜその目標値が設定されたのか根拠がなく、現状値と比較してどれくらい達成見込みがあるのか、どれほど注力が必要なのか不透明であり、本当に達成されるのか不安になる。	3件	重点取り組みの目標値の設定は、これまでの事業実績から導き出したものです。重点取組の達成は数値で表されるものだけではなく、質的な評価も必要と考えています。評価については、アンケート調査をはじめ、事業ごとに実施するとともに、生涯学習推進協議会においても、評価の在り方を引き続き検討していきます。 ご意見を踏まえ、「第5章ビジョンの推進に向けて」に「「豊島区生涯学習推進協議会」において、毎年度、各取組み目標及び数値目標について進捗状況を検証し、各施策の効果を評価します」と追記しました。
3	<生涯学習の認知度について> 生涯学習の認知度が低いことが課題だと思う。例えば、「としまコミュニティ大学」は大学に在籍している人でも知らない。私自身参加経験があるが、若者は自分しかいないことに驚いた。開催場所も大学であり、内容的にも若者こそが学ぶべきものであったため、対象年齢層を広げ、若者への呼び込みを行うべきと思う。 具体的な広報策が書かれていない。例えば、駅構内のポスター掲示、周辺の小中学校・高校・大学・商業施設で資料を配布する、施設見学会や無料の体験講座などが良いと思う。	7件	生涯学習事業や生涯学習施設に関する発信力の不足は、重要な課題として認識しており、今まで以上に広く区民の方に周知する必要があると認識しています。今後、既存の広報媒体や学校への資料配布に加え、SNSの活用を強化するなど、多様な手法を取り入れてまいります。また、開催場所や対象層の工夫、体験講座などの新たな試みを通じて、より多くの方に興味を持っていただけるよう、魅力的な学びの場を提供していきます。 ご意見を踏まえ、「3—5 施策の方向性 学習情報の発信」に「ターゲットに届きやすく、伝えたい情報を明確にするなど世代に応じた広報手段を工夫します。」と追記しました。

No.	ご意見等の概要	件数	区の考え方
4	<重点ターゲットについて> 20～40 代の層を生涯学習に取り込めたら良いと思う。働きながら学ぶことは難しいことだが、豊島区と区内企業が連携して、働くと学ぶを両立できるモデルケースの構築を目指せると良いと思う。	1 件	20～40 代の層が生涯学習に触れることは重要だと認識しておりますが、ご指摘のとおり、働きながら、また子育てをしながら学ぶことは課題が多くあります。 柔軟な学びの機会の提供としてオンライン講座、短時間で完結する講座、平日夜間や土曜日に開催する講座などを開催するとともに、区内の企業や大学との連携の可能性を検討することで、ライフスタイルに関わらず、誰もが無理なく学び続けられる仕組みづくりを目指していきます。
5	<重点ターゲットについて> 青年期と成人期を重点ターゲットにしているが、学齢期も重点ターゲットにすることで、保護者に対する生涯学習の理解や知識が進み、ママ友間で広まりやすいのではなかと思う。	2 件	「学齢期」の保護者は、「青年期」もしくは「成人期」に当てはまる方がほとんどであり、そういった方に対する生涯学習の理解促進は、家庭内や地域全体での学びの醸成につながると考えています。 また、ママ友間で自然と広がる仕組みは有効な点であり、こうした地域のコミュニティを活かした情報共有や学びの連携は、長期的視野で区としても支援すべき取り組みと認識しています。
6	<重点ターゲットについて> 高齢化が進んでいる中、青年期や成人期と比べてコミュニティを得る機会が少ない高齢期が重点ターゲットとして位置づけられていないことを問題視した。 重点ターゲットを絞らず、各年齢層・ライフステージごとに必要とされていることに目を向け、その中で優先順位をつけて最も重要なものから優先的に取り組むべきと考える。	3 件	本区の生涯学習では、多くの高齢期の方々が時間的な余裕を活かして学びの場に参加され、コミュニティ形成を図っています。その一方で、「青年期」や「成人期」の方々に対する学びやコミュニティ形成の機会が不足しているという課題があります。 「年齢やライフスタイルにかかわらず誰もが学ぶことができる」という生涯学習の前提を守りつつ、機会が不足している「青年期」や「成人期」を重点ターゲットとすることで、結果的により幅広い層に学びの機会を提供していきたいと考えています。

No.	ご意見等の概要	件数	区の考え方
7	<重点ターゲットについて> 重点ターゲットが青年期・成人期（中学生から65歳）となっているが、少し広すぎると感じる。人口の半分以上の人が該当すると思うのですが、それだと重点的にターゲットにしているとは言えないのでは。 重点ターゲットとする上で具体的にどのようにして他の期と差をつけているのかを明記した方がわかりやすいのではないかと思います。	1件	「青年期」や「成人期」に対する学びの機会が不足している背景もありますが、年齢・ライフステージに応じた自己形成やキャリア形成、ライフステージの転換点が多い世代を重点ターゲットと設定することで、多様化するニーズによりマッチしたプログラム展開をしたい狙いもあります。 なお、重点ターゲットとしている世代に関わらず、全ての年齢やライフステージに応じた学びの場を創出していきます。
8	<ビジョンの進行管理について> PDCA サイクルによる定期的なチェックを行うとありますが、例えば、半年ごとにレビューを行い、その結果をもとに施策の修正を行うプロセスを明記する等、チェックの具体的な頻度やその結果をどのように今後の改善に生かすのかを示すことで、進行管理の透明性と信頼性が向上すると思う。	2件	ビジョンの進行管理を具体的に示すことで、設定した目標、取組方針を着実に実施していきます。ご意見を踏まえ、「第5章ビジョンの推進に向けて」に「「豊島区生涯学習推進協議会」において、毎年度、各取組み目標及び数値目標について進捗状況を検証し、各施策の効果を評価します」「社会情勢の変化なども踏まえ、令和11年度（2029年度）に生涯学習推進ビジョンの見直しを実施します」と追記しました。
9	<アウトドアの活動について> 現状の生涯学習の取組みはインドア（ブックカフェや展示等）が多いと感じる。スポーツや自然教室のようなアウトドアの活動を増やした方がいい。	1件	「ジュニアリーダー講習会」では、アウトドアの活動を実施しているほか、「みらい館大明」においても自然体験活動を展開しています。また、各種スポーツ体験教室の開催や、スポーツに親しみをもってもらえるよう例年10月のスポーツの日に「としまスポーツまつり」を実施するなど、スポーツの促進にも取り組んでいます。 今後も、こうしたインドア・アウトドアを問わず、地域の多様なニーズにお応えできる生涯学習の取組みを進めていきます。

No.	ご意見等の概要	件数	区の考え方
10	<区外活動について> 豊島区は地方から移住してきた人が多いため、地方とのつながりを作りやすいと考える。それにより、豊島区で生まれ育った子どもが地方の自然環境に触れるとともに、地方にとっても活性化のヒントになると考える。例えば、地方の子どもとの交換留学や自然教室での農業体験などを行う。	1 件	豊島区では様々な交流自治体と共同子ども達の自然体験に繋がる事業を行っています。具体的には、交流自治体にあるダムでの生態系についての学習とアクティビティを行う「親子体験ツアー」や、スキー場リフト券を豊島区立小・中学校へ配布する「親子滑走事業」や、交流自治体にある森林において、自然に触れる体験学習を行う「環境交流ツアー」などがあります。こうした子どもたちが地方の豊かな自然環境を感じられる取り組みを今後も様々な自治体との連携のなかで実施してまいります。
11	<社会教育士について> 社会教育士を増やす取組みを行っていて良い。以前は社会教育が不要であると削減されていたようだが、社会教育の機会が重要視されており、社会教育士の必要性が高まっており、称号取得を促す取組みを行うことで豊島区社会教育の質も広がると思う。	2 件	多様化する区民の学びのニーズに応えるべく、社会教育士の役割がますます重要となっています。本区の生涯学習では、社会教育士の称号取得を促進する取り組みを推進し、その専門性やネットワークを活かした質の高い社会教育の展開を目指していきます。 ご意見を踏まえ、「第 4 章 4-2 III生涯学習施設の機能強化」に、社会教育士の役割を解説するコラムを加筆しました。
12	<その他> 立教大学生として、移民支援の強化についてどのようなアプローチができるのか検討している。現状を調査すべく、豊島区の小学校にどのくらいの割合の外国人がいるのか調査したいと教育委員会に問い合わせたが、個人情報のため回答できないと断られて残念だった。立教大学には、豊島区のために真剣に企画を考える学生や先生がいるので、そのやる気を無駄にしないためにも、情報を公開して欲しいと思った。	1 件	学校別の内訳を出すことで個人が特定される恐れがあるため、個人情報保護の観点から各学校に関する個別のデータは公開しておりません。 なお、『豊島区教育 2024』（令和 6 年 10 月発行）の 140 頁で、区立小中学校に在籍する外国籍児童・生徒数の総数を公表しております。当該冊子は、区のホームページでご覧いただけます。 また、同じく区のホームページに掲載している「住民基本台帳による年齢別人口」においても、地区別・年齢別の外国人人口のデータを公表しておりますので、そちらも併せてご参照ください。

6. 今後の予定

- (1) 令和 7 年 3 月 5 日（水） 第 5 回 第八期豊島区生涯学習推進協議会
- (2) 令和 7 年 3 月 21 日（金） 結果公表

- 豊島区生涯学習推進ビジョン【概要版】（案） 別紙のとおり
- 豊島区生涯学習推進ビジョン（案） 別紙のとおり